

横浜市立大学学術情報センター

貴重書  
月替わり展覧会リーフレット  
(173)

2026年2月の作品は

だいにほんしょうきろく  
『大日本性氣録 完』

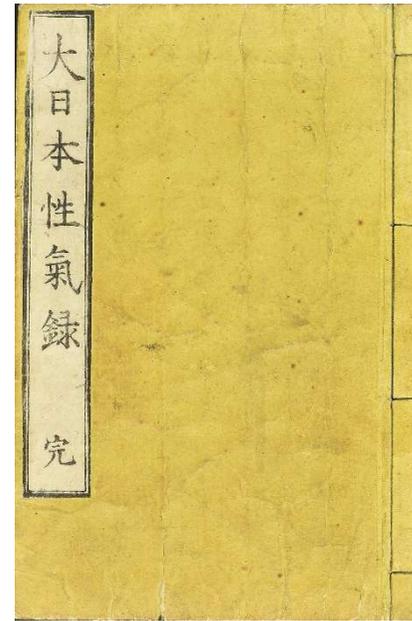
展示テーマ

～貴重書からふるさとを知る～

『大日本性氣録』には、おそらく1800年代の各国の風土やその土地に住む人々の性格などが記してある。

私は静岡県遠州地方出身のため、今回のリーフレットでは遠江と駿河に関する記述を取り上げる。遠江、駿河は、東西の京の真ん中に位置し、大井川が境界となって分かれている。遠江には、浜松城や掛川城、高天神城跡があり、国府は現在の磐田市に置かれていた。駿河には、家康が晩年過ごした駿府城があり、国府も駿府であった。

『大日本性氣録』を読むと、納得する部分と、納得がいかない部分があった。さらに、同じ静岡県であっても、駿河と遠江で異なる部分があった。様々な発見を与えてくれるこの資料をもとに、県史などを用いて自分のふるさともっと知りたいと考えている。



『大日本性氣録 完』(1冊)

江戸時代 作者：不明

版元：有造館

縦 18.3cm × 横 12.2cm

国郡の始まりや土地、山川、英武、武士、民の風俗、なまりについて記してある。この書の表紙裏には、「博覧する人や自分の行いを治め正して家庭を整え治めたい人、温故知新の話草が欲しい人のための本である」と記述があった。

地域ごとで、批評の辛口度合いに異なりがある。

遠江

習わしは三河と同じで、人の心に何があってもひるむことがない。そうして死ぬのだろうと理解しては。三州(三河国)との違いは、物を頼る気があることだ。そうして媚びへつらう様子である。ただ、本人が智をもつて下から上を見定め、自らを知らずに上を誹謗して、諫めることはせずに武士団を立て、他を求める風潮がある。知恵があり気が鋭いため、善に近いこともある。何事も明日に伸ばさない風潮がある。東に寄るにつれ、この様子が高まる。

○土地風景は大体三州と等しい。ただ、三州よりは山が多く、南はみな海辺である。寒暑も三州より山中は少し寒い。人民は芝居を書くものに詳しく、自慢の気質がある。

駿河

風俗は遠州と変わり、心狭く、誠意が少ない。気が荒ただしく、のんびりした気持ちりがほぼない。気がめいた時は回復せずに命を終える者もいる。頑固である。ただ、常に媚びる気質がある者は多い。世間体を思い立身出世する者は少ない。全員が威厳を持ち、互いを卑しめ落とす。だらしのない様子である。

○当国も北は山、南は海。最も山が多い富士の峰を背負い、大河が多い。寒暑は極端でなく、程よい温暖な気候。

## 展示のみどころ

### ～記述の根拠と、駿河と遠州の比較～

『大日本性氣録』には根拠が不明な文章が多く、記述の由来を調査した。根拠は信ぴょう性の高さを求め、静岡県の歴史をもとに考察した。なお、一部は私の記憶する故郷の言い伝えも含まれる。

#### 遠江国

遠江は、「三河と同じで」や、「三河と等しい」等、三河との近似性を示唆する表現が多い。この理由として、家康の存在が考えられる。家康は、今川氏の支配下であった三河を押さえた後、遠州侵攻を開始し、掛川城を押さえて遠州の平定を進めた。つまり、三河と遠江は家康下にあった。このことが三河との関係を強調するのではなかろうか。また、遠江では駿河と異なり名主のことを西国で使用される庄屋と呼んでいたという事実も、駿河よりは三河と近いことを示すだろう。

「ものを頼りにする気質」は、わいろ政治をしたといわれる相良藩の田沼意次が関係しそうだ。「武士団を立て他を求める風潮」は、永禄6（1563）年末頃の「遠州そう劇」「遠州錯乱」などの遠州の反乱や水野の悪政に対する打ちこわしの影響かもしれない。また、やらまいか精神（遠州で古くからある、やってみよう精神）という積極的な姿勢が「何事も明日に伸ばさない風潮」と同様に関係しそうだ。「知恵があり気が鋭いため、善に近いこともある」は、賀茂真淵により、国学が駿河や伊豆に比べて早く発達したことや、掛川藩太田氏が清廉気骨だという評判、そして藩校の設置があったことが関わる可能性がある。

#### 駿河国

「遠州と変わり、心狭く、誠意が少ない」という文は、疑問であった。家康の城があり忠誠心高そうであるが、違ったのだろうか。

「気があわたしいため～」、「遠州と変わり～」や「全員が威厳を持ち～」などの酷評の理由は、駿河のほうが少し都会だからなのではないか。現代では西部の人々の中には、静岡市方面の東部に商業施設があったり、テレビ局があったりなど、静岡の中では都会なので、良く思っていない人

もいる。「媚びる気質があるものは多い」というのは、絶対的権力を持つ者（家康公）がいたからなのではないだろうか。「世間体を思って立身出世するものは少ない」は、駿河のやらまいか精神の消極性と関係がありそうだ。そして、「北は山、南は海」や、「富士の峰を背負い、大河が多い」は、北には富士山があり南には駿河湾があることが現在でも確認できるほか、大井川、安倍川、富士川、狩野川などの多くの河川があることが確認できる。

#### 遠江国と駿河国の比較

遠江も駿河も、厳しい評価の記述が多かった。遠江は良い評価もあったが、駿河国は全否定されていた。位置的問題もあるだろうが、天候についてはどちらも温暖ということで納得のできる記述であり、200年後の現在もほとんど同じであると判断できる。また、人の性質に関する説明では、どちらにも他人にこびへつらう気質があるとされている共通点があった。しかし、駿河国の人々は遠江の人々よりも頑固な性格だ、と比較されている箇所があった。

#### 参考文献

- ・磐田市公式ウェブサイト「遠江国分寺跡」（閲覧日 2025年12月22日）  
[https://www.city.iwata.shizuoka.jp/sports\\_midokoro/bunkazai/kunishitei/1002046.html](https://www.city.iwata.shizuoka.jp/sports_midokoro/bunkazai/kunishitei/1002046.html)
- ・静岡市公式ホームページ「駿府城～大御所家康終焉の城～」（閲覧日 2025年12月22日）  
<https://www.city.shizuoka.lg.jp/s6725/s012164.html>
- ・本多隆成ほか『静岡県の歴史』山川出版社 1998年
- ・伊勢湾環境データベース「駿河湾の環境：河川」（閲覧日 2025年12月22日）  
<https://www.isewan-db.jp/SurugawanKankyosk05.asp>

#### あとがき ～貴重資料に触れて～

私は遠州（遠江国に当たる地域）の人間なので、遠江のほうがよく書かれていたことは率直にうれしかった。現代では、静岡県は温暖な気候であるゆえに県民の性格も温厚だといわれるが、記述ではそのようなことが一切書かれていないため、時代によって見え方が変わること気が付いた。伊豆と三河を追加で比較したら当時から分かるかもしれない。

※コレクションの閲覧は、作品保護のため、展示品を除き申請が必要です。また利用は学術研究目的に限らせていただいております。

※過去の展示はオンラインでも公開中です！

※第174回展示は令和8年3月上旬からを予定しています。



令和8年2月1日発行  
令和6年度 日本文化論B受講生 編集  
236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2  
横浜市立大学 学術情報センター